

# ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」

～ 夢と自信と思いやり ～

多治見市立共栄小学校 R2. 10. 30

## 【誠実に授業に向き合う ～授業参観より～】 校長 宮地敏彦

10月12日（月）から16日（金）まで“教育公開週間”というかたちで授業参観を実施したところ、多くの保護者の方がご来校くださり感謝申し上げます。今年度初めての参観ということで、どの学年の子もいつも以上に緊張して頑張っていました。ウィズ・コロナを考慮し、どのクラスも一回の参観者数の上限を7名として、入室にあたっては体温の記入やマスクの着用、手指消毒をしていただきました。ご協力ありがとうございました。



＜1年生の参観授業＞

授業参観で緊張するのは児童だけではありません。ベテランの教員でも緊張し身が引き締まります。それは、「子どもたちが生き生きと目を輝かせるところを見ていただきたい」、「子どもたちに、より活躍できる場面をつくってあげたい」という思いがあるからです。もちろん、共栄小学校の先生達は日頃から教材研究や授業準備に余念がなく、学年の先生同士でよりよい授業をおこなうために時間をかけて相談等もしています。自分の専門教科以外の科目もわかりやすく学ばせるために、児童が下校したあとに毎日労苦して準備しています。5日間連続で参観授業をすることは、通常よりもさらに大きなエネルギーを必要とします。それを知っている私は、校長として『通常の授業をおこない、それを見ていただければいいと思いますよ。』と声をかけましたが、どの先生も毎回毎回心と思いと力を尽くして取り組んでいました。その誠実さや勤勉さに感心すると同時に、それは“チーム共栄”の誇るべき財産でもあると実感しています。

## 【途上国での日本人のイメージはよい？ ～ソロモン諸島体験記⑧～】

ソロモン諸島国の首都があるガダルカナル島は、第二次世界大戦中、日米の最終激戦地となりました。現在も木々の生えない丘や戦争の残骸は海中やジャングルに残っています。ソロモン人から見れば、日本人は国を荒らし、平和な暮らしを奪った相手なのですが、日本人に対するイメージは驚くほどいいです。実際、生徒が使用する中学校社会科の教科書は3割強が日本の文化や歴史に関する内容でした。（日本人はソロモンのことを知りませんが、ソロモン人は日本のことをよく知っています。）



＜日本軍の高射砲残す国際空港＞

日本人に対する好印象はなぜか？現地の多くの人の声をまとめると、日本人の国民性への称賛がありました。

第一に“賢さ”です。敗戦で国が壊滅状態になり、途上国同様となったにもかかわらず短期間で復興を成し遂げ、オリンピックまで開催し、世界一豊かな経済大国となった日本…。ソロモンの人たちは“ミラクルカントリー（奇跡の国）”と言いました。日本人の賢さに対するあこがれがあるとも言っていました。



＜校庭に残る戦車＞

第二に“誠実さ”と“勤勉さ”です。日本の急速な復興と成長は、日本人が誠実に一丸となって一生懸命働く国民であるからだと言っています。ある日、ジャングル探検で奥地を歩いていると、『♪ぼくらはみんな生きている～♪』と、歌声が聞こえてきました。声の主は現地の子どもでした。『おじいさんに教えてもらった。』と答えたので、村で話を聞いてみると、そのおじいさんは『日本の兵隊さんに教えてもらった。』ということでした。（ジャンケンも知っていました。）戦時中、敗走してジャングルの中に逃げ入った日本兵が、現地の人たちとよい交流をしていたことが想像できます。戦争は悪いことですが、個人としての日本兵の多くは日本人としての誠実さや勤勉さをなくしていなかったと思います。また、国づくりを支援する私たち日本人ボランティアの姿も“誠実で“勤勉”だと言ってくれました。実際、私も同僚の先生達や生徒から『あなたはよく働く！』と言われました。（日本の学校の半分くらいの働きでしたが…。）

“誠実さ”や“勤勉さ”は日本人のよさであり強みです。共栄小学校の子どもたちには、それを誇りとしてどんな試練や困難があっても、その強みを生かしてたくましく生き抜く社会人になってほしいと願います。